



笑顔輝く女性研究者 in SOC U



山陽小野田市立
山口東京理科大学 **ダイバーシティ推進室**

文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

ごあいさつ

世の中の急速な変化に伴い、日本でも「男女雇用機会均等法」「障害者差別解消法」など法の整備が進められ、「ダイバーシティ推進」「ワークライフバランス」「共生社会の実現」など、ダイバーシティに関連する話題が取り上げられることが頻繁になってきています。

山陽小野田市立山口東京理科大学は、所属する全ての構成員の性別、国籍や年齢などにとらわれることなく、多様な人材や価値観を積極的に取り入れ、教育研究活動の基盤の整備・充実を図ることを目的とし、男女を問わず本学のすべての教職員の働きやすい環境を作るために様々な事業に取り組んでいます。具体的には、研究環境の整備、研究者がキャリアを継続して能力発揮できるよう、教職員のライフイベント支援や女性研究者の研究力向上に向けた支援や意識改革のためのダイバーシティ関連セミナーを行っています。

その一環として作成されたこのパンフレットでは研究を通じて地域連携・生涯学習に貢献し、また学生たちのロールモデルとなる本学の女性研究者を紹介しています。研究者としての目標、研究テーマやその内容、研究に取り組むきっかけなど、普段の講義の時とは異なる姿が見えてくるでしょう。また後半では本学の状況や取り組みについてご紹介しています。本学の取り組みにご理解とご協力をお願い申し上げます。



ダイバーシティ推進室長・副学長
堤 千佳子

RESEARCHERS 01

文学作品を常に新たな視点で読み返し、新たな発見を目指す

研究テーマ

Research
Theme19世紀アメリカ文学
少女小説に見るヒロイン像
文学作品と映像化

共通教育センター（英語系科目）

教授 堤 千佳子 TSUTSUMI, Chikako



研究内容



19世紀のアメリカ人作家ヘンリー・ジェイムズを中心に研究しています。特にモダニティの観点から、作品の中で描かれている女性たちについて、社会の中での立場、人間関係の渦に巻き込まれるきっかけとなる財産の贈与、男女関係、他者を操る他の登場人物たちとの関係などの視点から考察しています。また、読者も登場人物も少女である、女性作家による「少女小説」や、文学と映像文化の関連についても研究を重ねています。SDGsやダイバーシティの観点からも作品に向かい合っています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

中学生の時に会った2人の英語の先生に英語を学ぶ楽しさや言語の奥深さを教えていただき、何よりも英語が好きになりました。大学では「英語」を勉強したいと思い、外国語学部に入りました。もともと読書は好きでしたが、授業の中で「文学」の面白さに開眼し、大学院で文学を専攻することに決めました。人間を描くという点で、文学には普遍性と不変性があり、また同時に時代に合わせて変化していく柔軟性もあります。これからも様々な視点で作品に取り組み、追及していきたいと思っています。

RESEARCHERS 02

版画(リトグラフ)の制作と発表の活動をしています

研究テーマ

Research
Theme

日本現代版画が国際的にも評価が高く、
世界最高水準にあるのは
浮世絵という土壌があるからです。

共通教育センター(芸術系科目)

教授 縄田 也千 NAWATA, Yachi



研究内容



浮世絵は「描く・彫る・刷る」が分業化されていましたが、現代はそのプロセスを作家一人で行う創作版画が主流です。版画といっても様々な版種がありますが、大学院の頃からリトグラフの制作・発表を中心に活動しております。クレヨン等で描いたものがそのまま刷れるのが魅力ですが、木版刀による彫りの凹凸や銅板腐蝕による物質感もないため、版が不安定でつぶれ易く、職人的技術を持っていないと、刷ったものが版に描いたものとはほど遠いものになってしまいます。何年たっても習練が足りないことを痛感しながら、生涯リトグラフというやっかいな技法と向き合い、質の高い作品を制作していこうと思っております。

研究者になったきっかけとこれからの夢

環境的な要因も大きかったと思います。父親が東京藝術大学出身であったため、アトリエが自分の部屋でした。芸大工芸科を目指して美術系予備校に通っているうち、事務室に展示してある版画に衝撃を受けて進路変更しました。当時、版画は油絵科に属する美大が多かったのですが、女子美術大学のみ「版画科」が独立して存在し、しかも募集定員が20名という条件を見て「これだ!」と直感して入学しました。思い返せば、小6の夏休みにトランプ裏に印刷された広重「東海道五十三次」の小さな絵を頼りに単色ペンで全て模写した経験があり、版画に縁があったのでしょう。

RESEARCHERS 03

普段あまり意識しないことを、敢えて意識してみたいと考える研究者

研究テーマ

Research
Theme

愛とは何かを探る

— 目には見えないが、
確実に存在している大切なものを言語化する —

共通教育センター（英語系科目）

准教授 池田 容子 IKEDA, Yoko



研究内容

イギリスの文学作品、特にJane Austen (1775 - 1817) の作品を通して、「愛とは何か」、そして「愛はどのように芽生え、育まれ、存在し続けるのか」を探っています。目には見えませんが、



この「愛」とは一体何であるかを、自分の言葉で説明できたらと考えています。パソコンやスマホ等の文明の利器のおかげで、コミュニケーションは気軽に手軽なものとなりました。しかし、他者と深く関わろうとするのであれば、これらの機器よりも、もっと重要な役割を果たす何かがあると私は考えています。私達の暮らしを、より豊かにしてくれるであろう、この「何か」を探し求め、文献に当たっています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

学生の頃、いわゆる名作と呼ばれる本を自分で読んだのですが、その時は全く面白いとは思いませんでした。ところが、大学の先生の解説をお聞きしながら再度読み進めると、同じ作品が非常に面白い作品に大変身していたのです。私も先生みたいになりたいと思いました。

将来は、今まであまり読書に親しんだことのない方々も含め、より多くの人達と文学作品の面白さを分かち合うことができると考えています。そのためにも、易しい言葉でわかりやすく解説できることを目指しています。

RESEARCHERS 04

研究生活は退屈とは無縁 面白さと興味を動力に取り組む量子物性の研究

研究テーマ

Research
Theme

超伝導と磁性の機構に見える 量子物性の面白さ

～電子状態と多体問題から探る～

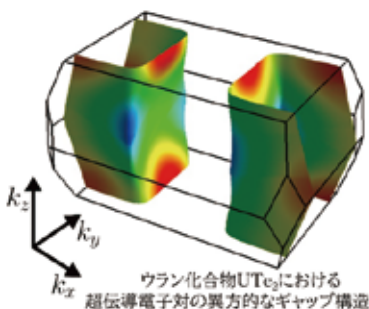
共通教育センター（物理学・物性理論）

准教授 兼安 洋乃 KANEYASU, Hirono



研究内容

超伝導や磁性の量子機構の研究に取り組んでいます。超伝導は電子がペアとなり、様々な状態を現わします。その発現機構は電子状態と電子相関などに関係し、磁性にも繋がる場合があります。また温度、磁場、圧力の変化で状態を変えて多様であり、特にf電子系化合物ではその



の機構の多くが未解明です。この超伝導機構を理解するには、化合物を構成する原子の元素種類と結晶格子の特徴をとらえて、電子の量子性から理解していくことが必要となります。この化合物のモデルに対する数式とコンピューターを用いた解析から、機構解明に向けた研究を行っています。超伝導のミクロな物性や機構を理解して新物質開発へ繋がれば、エネルギーや量子コンピューター等の応用への寄与も期待されます。

研究者になったきっかけとこれからの夢

元々数学や物理が好きでしたが、大学の学部1年までは割とぼんやりと過ごしていました。その後、学部2年生で電磁気学のマクスウェル方程式を学んで衝撃を受け、スイッチが入り、量子力学、統計力学と学ぶうちに更に面白くなっていきました。卒業研究や大学院で実際の物質を対象とした理論研究を行い、超伝導と磁性の性質に興味を待ちました。その興味が今に続いています。電子状態と電子相関による多体問題の点から理論的に調べていくことで、新しい機構に気が付くこともあるのが面白いと思います。その面白さを学生と共有して進んで行ければと思います。

RESEARCHERS 05

人間の言語の力を解明したい

研究テーマ

Research
Theme言語は人の思考に
どのような影響を与えるのか

—眼球運動測定装置を用いた言語相対説研究—

共通教育センター（英語系科目）

准教授 田島 弥生 TAJIMA, Yayoi



研究内容

私たちは言語を使ってものを考えています。言語を全く介さずに何かを考えようとしても、それはとても難しいことです。そうだとすれば、私たちの思考は言語の影響を受けているのではないか、私たちの見ている世界はみんな同じというわけではなく、自分が普段使用している言語



によって少しずつ違うのではないかという考え方を言語相対性理論といいます。この理論に基づき、周辺情報から言語化する日本語母語話者の周辺認知と、日本語とは異なる情報構造を持つ英語母語話者の周辺認知とを眼球運動測定装置を用いて比較し、言語と認知の関係について検証しています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

研究の道に進むきっかけは、当時勤めていた会社が倒産したことです。それを機に英国の大学院に留学し、面白い先生や研究に出会ううちに言語と思考の関係についてもっと研究を深めたいと考えるようになり、博士課程に進学しました。

今後は、英語の文章を解読しようとしているときの眼球運動を計測して、学習者の頭の中では何が起きているのか、どうすれば英語の文章を楽に読めるようになるのかについて、研究を進めていきたいと考えています。

RESEARCHERS 06

子どもの『声』を伝える研究者に

研究テーマ

Research
Theme子どもの支援の在り方について
考える

共通教育センター（心理学）

准教授 福田 みのり FUKUDA, Minori



研究内容



子どもはどのようにして新しい概念を獲得していくのでしょうか。数の概念や科学的な概念をどのように獲得するのか、どこでつまづくのかを研究し、その支援の方法について考えています。

また、子どもにとって相談しやすい相談支援の在り方についても研究しています。子どもを権利の主体とした相談支援とはどのようなもので、これまでの相談支援と何が異なるのか、またそのような支援が子どもにとってどのような意味を持つものなのかについて心理学的視点から研究しています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

専門分野をもっと学びたいと思い大学院に進学しましたが、修士課程では研究者には向いていないのではないかと考えることも多く、修了後はこれまでの自分の興味関心を活かすことができそうな子どもの相談現場で働くことを選びました。「子どもにとって一番よいこと」を子ども自身と様々な専門家（法律、福祉学、社会学、教育学など）とともに考えていくという実践の中で、研究や教育を通して子どもたちの現状についてもっと多くの人たちに伝えたいと考えるようになりました。

「困っている当事者である子ども自身にまずは話を聴いてみよう」と誰もが当たり前のよう考え、実行される社会になることをめざし、研究を行なっています。

RESEARCHERS 07

制度と文化の壁を乗り越え、世界の児童のために より良い教育を創造する研究者を目指して

研究テーマ

Research
Theme

教員、校長の研修制度、 専門職化に関する研究

共通教育センター（教育学）

講師 殷 爽 Yin Shuang



研究内容

教育のキーパーソンとしての教員、校長の育成制度が、なぜ・どのように形成されるのか、ということが主な研究課題です。日本だけではなく、諸外国の教育制度、学校教育の事情なども視野に入れ、その国、社会、さらに地域の文化と特質が、多様な制度の形成に対して、どのような影響を与えているのか研究しています。また、



日本の現職教員との授業

AI技術の進展著しい今日、未来の教員はAIに負けないよう、何を子どもに教えるべきか考えておく必要があります。一つの提案として、地域の文化からもたらされる創造性、発想力などの理解は、AIには無い、良いスキルになるのではないかと思います。このように、未来に向けてどのような教員、校長を育成するか、どのような制度が作成されているのかについても研究を進めています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

最初の留学先である東京学芸大学では、五里霧中の内に教職大学院の授業を履修していましたが、数多くの現職の教員、校長と出会い、授業の内外で交流を深めるうちに研究の道が見えてきました。交流の中では、皆さんの「教員となった理由」「教員としての悩み」「キャリアと自身の能力向上」などの話を聞くことが出来ました。そして「なぜ、教員はこんなに悩んでいるのかな？」という素朴な疑問から、研究者の道が始まりました。

学生時代は「青春18きっぷ」で東京から6回乗り換えて大阪まで行きました。そこで、文化の壁の存在は、国と国の間だけではなく、地域間でも微妙に存在していることに、ゆっくりと移動する電車の中で気付きました。このような経験・体験は、この世界を認識する入り口であり、長く険しい研究者生活の楽しみでもあります。

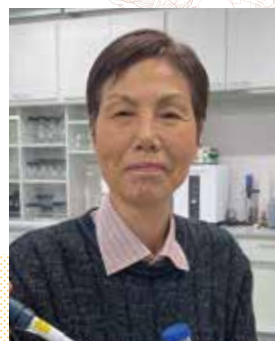
これからは、世の中の万物への思考、問いかける楽しさと面白さ、それに研究の「苦しさ」を教員養成に活用することが私の夢です。

中国の教員研修への
参与と現地調査

RESEARCHERS 08

自分の大好きなことができ、社会にも貢献できる研究者は幸せ者

研究テーマ

Research
Theme炎症性疾患やガン、老化から
身体を守る遺伝子スイッチの解明工学部 医薬工学科 生化学・分生細胞生物学
教授 井上 幸江 INOUE, Sachie

研究内容

私たちは、時々刻々と変化する体内および環境の変化に適応することによって、生存しています。この環境適応システムは非常に複雑であり、多くの遺伝子が関与しています。私はその中で、様々な病気の発症に関わる「酸化ストレス応答」に関わる遺伝子スイッチの研究を行っています。ヒトの遺伝子は、約25000-30000個ありますが、そのすべてがオンになっているのではなく、必要に応じてオン・オフのスイッチが巧妙に調節されることによって、生命が維持されています。また、1つの遺伝子のスイッチは、1つではなく、複数のスイッチによって、細かく制御されています。その仕組みを明らかにすることによって、病気の原因解明や治療薬の開発に繋がりたいと思い、研究を行っています。

研究者になったきっかけとこれからの夢



すべての人に桜梅桃李の花は咲く

薬学部の学生だったころ、ある教師から「Unity and Diversity」つまり、正常な細胞と異常な細胞の共通点と相違点を明らかにすることが創薬の基本である、と教わったことが生化学の研究者への道に入った原点です。生命現象の研究を進めて行けばいくほど、その巧妙さに感動するとともに、さらに疑問が増えていきます。この研究生活の面白さを次世代の若き研究者に伝えることが私の夢です。

RESEARCHERS 09

問いに向き合いつづけるということ

研究テーマ

Research
Theme廃棄物利用による
エネルギー循環システムの構築工学部 機械工学科 エネルギー・環境分野
准教授 神名 麻智 KANNA, Machi

研究内容

国内で供給可能な再生可能エネルギーの利用率を上げるために、特に廃棄物系バイオマスのエネルギー変換に着目しています。近年は SDGs の取り組みから廃棄物の再利用も多岐にわたり進んできていますが、まだまだ利用されていないものもあります。その中で、私が注目したのは未利用熱です。農業、畜産業から排出される廃棄物を堆肥に変える際、発酵熱が生成しますが、その熱はそのまま廃熱として大気に放出されています。この捨てられている熱を何かに利用できないかと考え、研究をスタートさせました。熱を効率的な仕事に変えることおよび、堆肥化の発熱過程で関わる種々の微生物の複雑な反応を含めた熱移動機構を明らかにすることが私の研究目標です。

研究者になったきっかけとこれからの夢

小さいころから科学系の雑誌などを見て、科学になんとか興味を持ってはいましたが、高校生の頃に自分も将来こういう研究をしてみたいと、ふと思ったのがきっかけです。研究はうまくいかないことなどの連続ですが、それも含めて研究ができていること、わからないことを考えるという日々に感謝しています。

これからの夢は、どのくらいできるかわかりませんが、未知なる現象のほんの一部でも明らかにすることです。

RESEARCHERS 10

小さなナノで大きな変化 - 新しい素材で未来をつくる

研究テーマ

Research
Theme

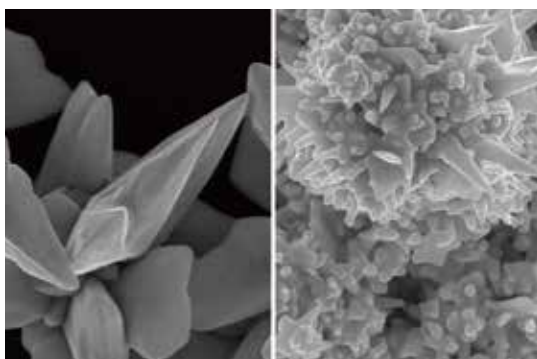
ナノ・マイクロスケールで
精密構造制御した
触媒・電子材料・光機能性材料の開発

工学部 応用化学科 ナノ材料化学・界面化学分野
講師 Ke-Hsuan Wang



研究内容

物質のサイズがナノメートル程度になると、物理的・化学的性質が変化し、バルク材料と異なる特性を示すようになります。当研究室は、遷移金属や貴金属材料を精密に構造制御することで、



触媒・光機能性材料・電子材料などの材料開発を行っています。たとえば、金の化学還元において、ハロゲンイオンの添加により、金ナノ粒子の形状を自在に操ることができます。これらの材料開発にあたり、その場合分光測定を行い、材料のメカニズムを解明することで、より高効率な材料開発を目指していきます。

研究者になったきっかけとこれからの夢

研究者への道は、学生時代に研究室で行った課題研究から始まりました。仮説を立て、方法を考案し検証し、結果を考察するプロセスは地味ながらも重要です。新しい「もの」ができたときや、それまで知られていなかった現象を発見したとき、そして独自の理論を導けたときの喜びは筆舌に尽くし難いものがあります。これらの経験から、科学の魅力を次世代の若者たちに伝え、自分自身の科学的な夢を見つけ、追求できるように導くことを目指しています。

RESEARCHERS 11

どんな化合物でもきれいに合成してみたい！

研究テーマ

Research
Theme

発がんと制がんの有機化学

薬学部 薬学科 有機薬化学分野

教授 稲見 圭子 INAMI, Keiko



研究内容

薬学における有機化学の知識を基盤として、「生理作用を持つ」新規有機化合物の合成と化学的反応性、生体分子との相互作用を検討することで活性発現機構の解明に関して研究しています。特にがんの発生と制御を有機化学的に解明することが目的です。がん予防では、N-ニトロソ化合物の発がんを抑制する成分の探索研究をはじめ、活性酸素消去化合物や一酸化窒素供与体など、がん予防に寄与する新規化合物の創製に取り組んでいます。制がん研究ではがん治療によるがんの制圧が目標です。多くの制がん剤は有効で種々のがんの治療に用いられていますが、重大な副作用を併せ持っています。そこで、副作用を軽減させるような制がん薬も開発しています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

これまでに存在が知られていない新規化合物の合成にチャレンジしてみたかったことから、有機薬化学研究室に入門（弟子入り）しました。その後、「新規生理活性物質や不安定化合物が、どうしたらきれいにうまく合成できるか」だけを考えながら、日々合成の腕をあげるために張り切って合成していたら、今に至りました。

今後も自分にしかできない研究をコツコツと続けていくとともに、将来の夢は、何事にも真摯に取り組み、後輩達の面倒をよく見る学生を育てることです。また、大学教員となるような人材も育てたいです。

RESEARCHERS 12

国際的に活躍する、世界をリードする女性研究者

研究テーマ

Research
Theme世界初の製剤技術で
組織再生治療の未来を切り開く

薬学部 薬学科 薬剤学・製剤学分野
工学部 医薬工学科 細胞製剤設計学
准教授 堀口 道子 HORIGUCHI, Michiko



研究内容



誰もが安心して病気の治療ができる社会の実現のため、より安全で効果の高い薬や治療法の開発に取り組んでいます。アメリカ合衆国ニューヨークのコロンビア大学医学部で幹細胞やガンの研究を実施し、山口東京理科大学で幹細胞製剤を開発する研究室を立ち上げました。世界初の技術でこれまで治療ができなかった病気に対する新しい再生治療法を開発しています。この研究によって、病気で失った臓器を再生させる新しい治療の普及を目指します。

研究者になったきっかけとこれからの夢

家族がガンになったことをきっかけに薬学の道を志し、治療の難しい病気に対して、新しい薬や治療法を開発するために研究者になりました。

今は治らない病気を克服できる未来を創造するために、新しい技術を駆使した幹細胞製剤を開発する世界最大の拠点を構築していきます。



RESEARCHERS 13

病院薬剤師を経て、薬学部教員の道へ 地域課題解決研究に挑む研究者

研究テーマ

Research
Theme幼児も“ハイッ!”と
カルタで学べる感染症予防

—未就学児施設の感染対策指導状況と教育ツール開発—

薬学部 薬学科 薬学倫理学分野
講師 坂井 久美子 SAKAI, Kumiko

研究内容



COVID-19の流行が続く中、幼児の感染対策教育は感染拡大防止の観点から重要です。しかし、各施設の感染対策教育の把握は非常に困難です。私は、地域課題解決研究を軸に、まず山陽小野田市近郊の幼稚園や保育園等の感染対策指導の現状を調査しました。また、子供たちの感染対策支援を目的に「幼児のための感染対策カルタ」を開発し、その評価を検討しています。これからは、開発した教育ツールの活用を幼稚園や保育施設等に限らず、広く地域で活用できる事案を検討し、研究を行って行く予定です。

研究者になったきっかけとこれからの夢

研究の道に進む最初のきっかけは、4年制薬学部を卒業後、大学院時代の研修先で出会った女性研究者に憧れたことです。その後、働きながら研究を継続できる社会人大学院生（博士過程）として更なる研究を行いたいと考えました。

将来の夢は大学研究者として、地域の課題を解決する研究にこれからも取り組み、子供たちの感染対策支援および感染対策教育において地域に貢献できる研究を続けて行くことです。

RESEARCHERS 14

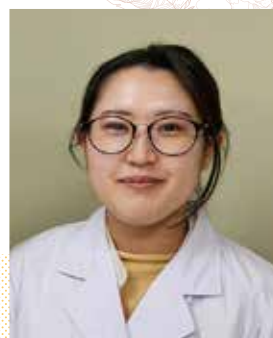
先人から受け継いだバトンを次世代に繋げる研究者へ

研究テーマ

Research
Theme

精神疾患を引き起こす
タンパク質の形を明らかにし、
疾患の原因を探る

薬学部 薬学科 生命物理化学分野
助教 杉山 葵 SUGIYAMA, Aoi



研究内容

近年、4人に1人が何らかの精神疾患に罹患している報告があるように、精神疾患は身近なものになりつつあります。一方で、疾患の原因が不明な場合も多く、診断・治療法の確立が困難な現状があります。近年、うつ病の原因遺伝子解析が進められる中、特定のウイルスの遺伝



子が、ヒトのうつ病発症リスクを高めていることが分かってきました。ヒトの体内では、このウイルス遺伝子をもとに産生された原因タンパク質が、うつ病の発症を促進すると考えられています。タンパク質によるうつ病発症促進の分子機構を明らかにすることは、根本的な治療法の確立や、客観的な診断指針を立てる上で役立つと考えています。

研究者になったきっかけとこれからの夢

大きなきっかけは、コロナ禍で過ごした、大学院生生活(博士後期課程)でのある気づきです。当時、新型コロナワクチンの開発速度の速さに驚くとともに、その背景には、過去に流行した、SARSを引き起こす類似ウイルスについての研究知見が役立った事実があると知りました。先人から受け継いだ知見を次世代に繋ぐことが、人類の危機を救うことにつながる点が研究の魅力の一つであると気づき、今に繋がっています。私も先人から繋いだバトンを正しく受け取り、同じ時代に生きる人々との交流を大切にしながら、次の世代に託せる研究者を目指したいです。

SITUATION

現在の状況

山陽小野田市立山口東京理科大学の事務局では、男性30名、女性49名の事務職員が勤務しています。(令和6年4月1日現在。専任職員、臨時職員を含む)

【部局紹介】

- 総務部／総務課・広報課・人事課・財務課
- 管財部／施設管理課
- 教育推進部／教務課・入試課・情報システム課
- 学生支援部／学生支援課・進路支援課
- 図書館事務室
- 研究推進部／研究推進課
- 地域連携・生涯学習部／地域連携・生涯学習課

【数字で見る女性の職業選択に資する情報(事務職員)】

専任事務職員では、職員の女性割合や管理的地位にある職員に占める女性の割合も増えており、勤続年数の男女差異も少ない状況です。

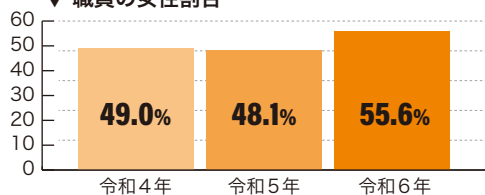
図書館事務室は、すべての学生・教職員・利用者が快適に利用できる図書館づくりを目指し、資料の構築や空間・環境の整備など、ソフト・ハードの両面を管理運営する業務を担当しています。

さて本学図書館で「diversity」をキーワードに蔵書検索すると、「生物」全体の多様性が主題の資料を数多く所蔵していることがわかります。理学を柱とする本学では、多様性と包摂を体現する大学コミュニティが実現されやすい環境にあるのかもしれない。本学の学生には、様々なバイアスに気づける人になってほしいと見守る日々です。

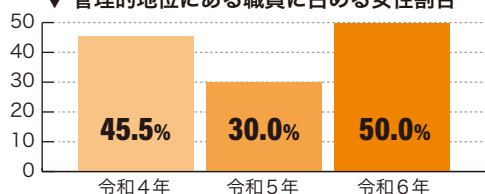
図書館事務室係長からのコメント



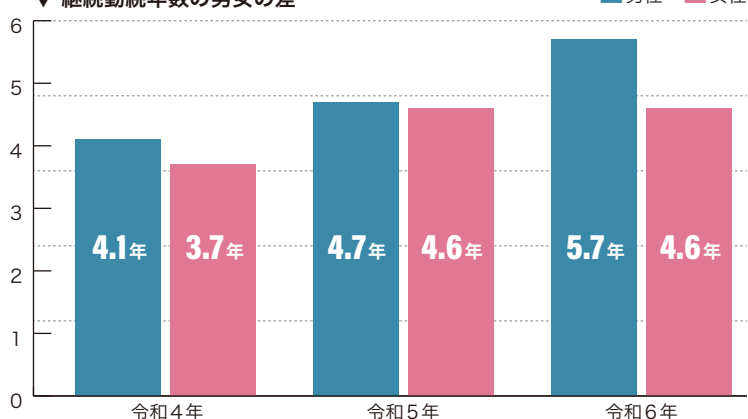
▼ 職員の女性割合



▼ 管理的地位にある職員に占める女性割合



▼ 継続勤続年数の男女の差



PICK UP!

さまざまな取組で支援しています

各種支援の詳細は19ページをご覧ください。

【育児支援】

仕事と子育てを両立するための支援で、3歳から12歳の学童を対象にした学校などの長期休暇中や学内イベント時に学童保育・一時預かりを提供しています。

チルドレン
デイキャンプ

電気コイルを用いて電磁石釣り竿を工作



ジャンベ太鼓で音とリズムを楽しむ!



うどん作り体験!

写真:過去の実施の様子

EFFORT

推進事業の取組

2023年度

- ・ダイバーシティ関連セミナー
- ・「やまぐち子育て応援企業」および「やまぐちイクメン応援企業」に登録
- ・女性研究者支援事業・育児介護支援事業各種
- ・チルドレンデイキャンプ
- ・ダイバーシティに関するアンケート
- ・働くパパママ交流会を開催

2022年度

- ・ダイバーシティ関連セミナー
- ・大学開放デーでのダイバーシティ関連企画
- ・女性研究者支援事業・育児介護支援事業各種
- ・チルドレンデイキャンプ
- ・ダイバーシティに関するアンケート

2021年度

- ・やまぐち健康経営企業として認定
- ・ワークライフバランスに関する教職員の意識調査を実施
- ・女性の職業生活における活躍の推進に関する法律に基づく一般事業主行動計画を策定
- ・ダイバーシティ推進本部及びダイバーシティ推進室を設置

2020年度

- ・文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」に参画
- ・女性活躍推進担当副学長を設置
- ・女性活躍推進委員会を設置
- ・女性活躍推進計画を策定
- ・障害者活躍推進計画を策定

2019年度

- ・障がい学生支援コーディネーターを配置
- ・特別休暇の適用範囲の拡大

2018年度

- ・やまぐち男女共同参画推進事業者として認証
- ・学生リーダーズキャンプで聴覚障害の特性及び聴覚障害者のためのノートテイク勉強会を開催

2017年度

- ・障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応要領を策定
- ・学生のための健康セミナー「LGBTsの基礎知識」を開催

2016年度

- ・市民のためのサイエンスカフェ「リケジョが語るサイエンスへのご招待」を開催
- ・母性健康管理のための休暇が取得できる制度を改正



大学開放デーでの科学実験体験



風づくりの様子

ヤマミィ学級
(山口大学主催)大学開放デーでの
ダイバーシティ
関連企画イベント時の
学童保育

イベント開催中の託児スペースにて



自分で作った風を実際にあげてみる

写真:過去の実施の様子

PLAN

女性活躍推進計画

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

山陽小野田市立山口東京理科大学は、女性はその個性と能力を十分に発揮できる社会を実現し、男女ともに教職員全員が活躍できる大学となることを目指し、次のとおり女性活躍推進のための行動計画を策定し、取り組みを進めます。

1. 計画期間

2021年4月1日から2025年3月31日まで

2. 本学の課題

教育職員に占める女性の割合が低く、また、女性が管理職を目指したいと思える環境整備が十分ではない。男女ともに、仕事と生活の両立を図る組織的取組をより充実させる必要がある。

3. 目標と取組内容・実施時期

【目標1】教員の女性の割合を15%以上にする

- ワークライフバランス推進及び女性活躍推進について、トップから発信する。
- 男女共同参画セミナーを実施し、女性活躍や女性登用に関する意識を高め、女性が活躍しやすい職場風土の醸成を図る。
- 女性に限定した教員公募、女性を優先した教員公募を実施する。
- 育児や介護といったライフイベントと仕事との両立、業績評価や仕事環境、キャリアアップ等に関する教職員の意識調査を実施する。
- 学童保育・一時預かり保育を実施する。

【目標2】女性の教授の割合を12%以上にする。

- ワークライフバランス推進及び女性活躍推進について、トップから発信する。
- 男女共同参画セミナーを実施し、女性活躍や女性登用に関する意識を高め、女性が活躍しやすい職場風土の醸成を図る。
- 教育職員の昇任制度の見直し、昇任基準の明確化を図る。
- 教員を対象に、より高度な知識やスキルの習得とリーダーを目指す動機づけや意識を醸成するための研修等を実施する。



SUPPORT

各種支援について

女性研究者への研究支援

● 優秀な女性研究者への研究費支援経費

女性研究者個人又は女性研究者が研究代表の共同研究グループを対象に研究費を補助する制度です。

● 女性研究者が代表の共同研究費支援経費

女性研究者が研究代表の共同研究グループを対象に研究費を補助する制度です。



育児・介護支援

● 研究補助員制度

本法人において、広く教員の研究を支援し、持って研究者の研究活動の継続と研究力向上を図ることを目的として、「研究補助員制度」を実施しています。

<研究補助業務の内容>

実験補助、研究データの解析、統計処理、文献調査、発表資料作成等の研究補助業務および大学共通機器の管理等に限ります。

● 長期休暇時の学童保育における共同利用
(山口大学主催「ヤマミィ学級」)

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)事業にて、2020年度から長期休暇時の学童保育の共同利用を開始し、連日多彩な体験プログラムが構成されています。



● チルドレンデイキャンプ

仕事と子育てを両立するための支援として、学校などの長期休暇中の学童保育・一時預かり保育を提供する制度です。3歳～12歳の児童を対象にした保育委託事業者による保育と学童に、本学独自のサイエンスの学びやアクティビティーを組み合わせる企画です。

● 学内託児スペース貸出

ダイバーシティ推進室を利用した学内託児スペースは、学内で開催されるイベント時の保育にご利用いただける教職員のためのスペースです。利用者は保育者を手配したうえで学内託児スペースをご利用いただくことが可能です(要事前予約)。利用を希望される教職員は、お気軽にダイバーシティ推進室までお問い合わせください。



UD (ユニバーサルデザイン) マップ

山陽小野田市立山口東京理科大学では、ユニバーサルデザインの考え方をもとに、だれもが安心して過ごせるキャンパスづくりを実現するため、建物入口・スロープ・エレベーター等のバリアフリー情報等に関する情報を掲載したUDマップ(ユニバーサルデザインマップ)を作成しています。



多目的トイレの設置

車いす使用者や高齢者、子供(幼児)連れ、介助を必要とする人、LGBT(性的マイノリティ)の方など、さまざまな事情を抱えた人の利便性を考慮した、多機能トイレを設置しています。



CONTENTS

・ごあいさつ

・女性研究者の紹介

・現在の状況

・推進事業の取組

・女性活躍推進計画

・各種支援について



山陽小野田市立

山口東京理科大学 **ダイバーシティ推進室**

文部科学省人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」

〒756-0884 山口県山陽小野田市大学通1-1-1

TEL 0836-88-3500 FAX 0836-88-3400

<http://www.socu.ac.jp/>

